

その7

第17回 日韓観光振興協議会の開催について

アンニョンハセヨ
안녕하세요?

(こんにちは)

* 朝、昼、晩を問わずいつでも
使える。

日本人海外旅行者数は、二〇〇一年はテロ事件の影響で前年比百六十万減、九・〇%減の千六百二十万人(世界第十位)と過去最大の落ち込みとなりました。旅行先で見ると、中国二百三十九万人、韓国二百三十八万人、アメリカ本土百七十二万人、ハワイ百五十一万人、香港百三十四万人となっています。

一方、訪日外国人旅行者数は、二〇〇一年は前年比一・四万人増、〇・三%増の四百七十七万人(世界第三十五位)であり、伸び悩みました。内訳は、韓国百十三万人、台湾八十一万人、アメリカ六十九万人、中国三十九万人となっています。政府においては、我が国に大きな経済効果(雇用効果)が期待される訪日外国人旅行者数を、概ね二〇〇七年を目途に八百万人とするとしています。

韓国については、米国、中国等とともに重点市場と位置づけられてお

り、効果的な誘客キャンペーンを実施することとしています。

「日韓観光振興協議会」は毎年、日本と韓国で交互に開催されており、今回(平成十四年十二月二日)は那覇市において第十七回の協議会が開催されました。次回は韓国の江原道束草において開催されることが合意されました。

この協議会は、日韓観光交流促進のため幅広く意見交換を行い、観光振興の分野における協力を推進することとしており、これまで両国の観光振興や観光交流に多大なる成果を上げております。

今回は、日本側から、金澤 悟国土交通省総合政策局観光部長や沖縄総合事務局長はじめ十六名、韓国側から権 慶相文化観光部観光局長はじめ十二名が参加し、日韓の相互観光交流の拡大施策、日韓の共同誘客施策、両国の観光客安全確保策及び需要回復策、地方観光の活性化についての協議が行われました。

その後、沖縄県観光関係者との「韓国・沖縄観光交流に関する意見交換会」が開催され、沖縄・韓国の直

行便の増便、新婚旅行者の受入、修学旅行者の誘致、ノービザ制度の導入、地方と地方の観光交流の活性化の推進等について意見交換が行われました。
翌日は、エクスカージョンとして、首里城、万国津梁館、美ら海水族館等の沖縄を代表する施設を視察され、短い期間ではありましたが沖縄への

理解を深め、評判は極めて良好でした。

韓国の皆様

감사합니다.

(ありがとうございました)

関係者の皆様お疲れさまでした。



「日韓観光振興協議会」における
日本側代表挨拶



「日韓観光振興協議会」における
韓国側代表挨拶